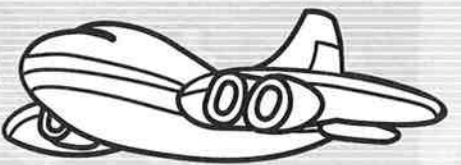


行って  
きました!

# ～ディーセント・ワークを学び感じる欧州視察～



生協労連は40周年企画として、10月26日から11月2日までの8日間、全国から26人が参加してベルギー、オランダ、スイスの3カ国を訪問しました。グローバル化と新自由主義に対する新たな模索を続けているEUの労働者・労働組合の実践に学びました。また、非正規労働者の均等待遇と男女平等が先進国の中で特に立ち遅れている日本での実現をめざすために、国際機関であるILO（国際労働機関）を訪問し、懇談をおこないました。



訪問先では女性が団長、女性の参加が半数以上の16人ということで大歓迎されました。均等待遇やディーセント・ワークを実現させるため、ILOへの要請や他国の労働組合と連帯することが重要だと実感してきました。(訪問団団長、みやぎ生協労組：布間きみよ)

## ブリュッセル (10月26日～28日)

最初の訪問先は、ビールやチョコレート、ワッフルなど、美食の国としても有名なベルギー。首都ブリュッセルは、ブリュッセル名物・小便小僧小便小僧や世界遺産・グランプラスといった歴史を感じる町並みの一方で、EU理事会やNATO（北大西洋条約機構）など多くの欧州・国際機関の拠点が置かれている国際都市でもあり、欧州35カ国の労働組合のナショナルセンターである欧州労連もここブリュッセルにあります。



ブリュッセル名物・小便小僧小便小僧や世界遺産・グランプラスといった歴史を感じる町並みの一方で、EU理事会やNATO（北大西洋条約機構）など多くの欧州・国際機関の拠点が置かれている国際都市でもあり、欧州35カ国の労働組合のナショナルセンターである欧州労連もここブリュッセルにあります。

行ってきたのはその欧州労連の付属研究機関であるETUI。そこで私たちはEUの意思・政策決定にも大変重要な位置を占める労働組合の役割と活動、そして多国籍にまたがって展開する企業が増加する中で、国単位から国際的なCSRの枠組み協定に広げるとりくみなど、興味深いお話をお聞きしました。

ETUIの会議室に児童の強制労働の禁止を訴える写真や労働者の絵が豊富にあり、活動の原点を忘れない雰囲気ですばらしく感じました(エフコープ生協労組：玉田賢久)



ETUIのみなさん

## アムステルダム (10月28日～30日)

ブリュッセルから運河と風車の国、オランダの首都・アムステルダムまでは、特急列車で3時間弱。アムステルダムでは「オランダ労働組合総同盟(略称FNV)」を訪ね、140万人の組合員を有するオランダ最大のナショナルセンターです。対話を重視しているオランダの労働組合の活動や、オランダモデル、女性の地位・均等待遇の状況、欧州労連におけるオランダの位置などについて学びました。20年前までは男女の役割分担は伝統的スタイルでしたが、現在はパートとフルタイムの権利の差はなく、女性の労働市場の参加率は65%で女性の経済的自立をめざしているそうです。



FNVで話を聞く参加者

FNVで「女性が経済的に独立すること、そのためにも女性の労働参加が重要である」との話を聞き、とても共感しました。(みかわ市民生協労組：大場美佳)

オランダ・アムステルダム

ベルギー・ブリュッセル

スイス・ジュネーブ

## ジュネーブ

(10月30日～11月1日)

最後の訪問先スイス・ジュネーブも国際機関が大変多く集まっているところ。今回の旅のハイライトである国際労働機関（ILO）はもとより、世界8億人の協同組合の本拠地であるICA、また赤十字、



WHO、国連欧州本部などもあり、街にはさまざまな人種が混在しています。ILOは、自由・公平・保障かつ人間の尊厳が確保されたもとですべての男女がディーセント・ワークが得られるような労働の世界基準を作っている国際機関です。今回は、生協職場の非正規労働者の実態を報告し、均等待遇の実現、女性差別を改善させるための運動について意見交換をおこないました。「先進国の中で111号条約（雇用機会の平等）を批准していないのは日本だけです。また、日本が批准している100号条約（同一価値労働同一報酬）と156号条約（家族的責任）を使い男性も巻き込んで、男女平等にむけて運動を強めてほしい。みなさんの職場の実態を公式報告書としてILOに提出していただければ、日本政府への勧告に使うことができます」との激励を受けました。



ILOで話を聞く参加者



日本から持って行った横断幕を前に「私たちがディーセント・ワークを掲げてがんばっています」と談笑



ジュネーブで表敬訪問したICAのイアン・マクドナルド事務総長から、日本の生協で働くみなさんへのメッセージをいただきました。「日本の生協運動は世界的にも特筆すべきものがあります。ぜひ自信をもってもらいたいです」

## 参加者の感想から…

欧州での「パートタイム」とは、正規と処遇（時給）は同じで労働時間が短いだけ。女性・非正規格差をなくしていく活動をぜひ生協の労働組合からアクションをおこしていきたい。(コープネット労組：森田恵理)

オランダは「自分が自分らしくいることに誰も干渉しない。同時に、自分が損することには黙っていない」国だそうですね。個人が自立し、自分をしっかりと持っているからこそ他人を認められるということ。個人の人権に徹底してこだわる労働組合でありたいと思いました。(関東地連：土屋禎)



アンネ・フランクの像。アムステルダムにある隠れ家も見学しました